

元高砂市議 緑の党グリーンズジャパン会員



[自宅] 兵庫県高砂市荒井町新浜 2-19-9

Tel 079-444-2343 Fax 444-2418

E-mail:ioku3@gmail.com

http://ioku3.sakura.ne.jp 新ブログも

ツイッター：@ioku3 Facebook・LINE: 井奥雅樹

「井奥まさき」
でweb 検索を

井奥まさきの市政ニュース

2014. 4 (月刊+ : 4月 通算 81号)

市民病院

市議会はなぜ病院についての特別委員会を設置しないのか

議長・副議長を出している最大会派は「居眠り議員」集団か 元高砂市議 井奥まさき

再び経営悪化の市民病院

大野院長のもと、劇的な経営改善を成し遂げた高砂市民病院ですが、再び経営危機に向かって突き進んでいます。昨年度の決算見込みは約5億円のマイナスです。原因は明らかです。一人あたり年1億円以上も医業収入をあげる医師の数が減っているからです。医師減少の背景は複雑で一言では説明しにくいものがありますが、端的に言えば「医師が人間関係で職場を決める時代から変化した」ことがあります。かつては上下関係や研修病院を基準に働き場所を決めていました。その傾向が薄れた

中、高砂市民病院の魅力が減っているわけです。

行政・議会の役割を發揮すべき

病院は限られた条件の中で精一杯やっています。平成19年度(2007)の約12億円の赤字から平成20年度(2008)、21年度(2009)には黒字を達成。国の「改善事例集」に掲載されるほどのV字回復を遂げました。しかし、その背景には市からの約22億円の特別支援がありました。支援により改革も進んだのです。今回、もし収支回復をのぞむのなら同等以上の支援が必要となるでしょう。病院の努力だけでは無理です。

行政がやらないのなら、議会が

しかし、貴重な税金を費やすからには「現状の理解」と「先行きの見通し」の徹底した議論が必要です。私は市民病院のあり方を専門家と市民で決める公開の会議が必要と考えます。しかし、「居眠り市長」の登市長に期待はできないでしょう。ならば、せめて市議会が特別委員会を設置して市民とともに徹底議論すべきです。なぜ3月議会に設置を決めなかったのか不思議です。特に議長・副議長を出している最大会派の責任は大きく、任期切れの6月議会でせめて「申し送り」議決をすべきです。

環境経済

使わない屋根をビジネスにする「太陽光発電マッチング事業」



高砂市のように再生可能エネルギー推進策が「補助金」だけでは知恵がなさすぎます。先進事例はたくさんありますが、今回は、使わない屋根と太陽光発電業者とのマッ

チング事業を紹介します。神奈川県では発電事業者と「屋根貸し」を希望する民間とをそれぞれ公募し、情報を公開する事で協議が進みやすくするような仕掛けを作っています。いわば「お見合い」というわけです。さらに東京都ではこれを押し進め、全国にさががけ

て「屋根台帳」を整備しました。建物がどのくらい太陽光発電にふさわしいかが一目でわかるマップです。ぜひ「東京ソーラー屋根台帳」で検索を。両方とも制度をつくり、民間の力を利用することで環境負荷を減らし地域経済も活性化するユニークな先進策です。

緑の党

労働時間短縮と「分かち合い」の労働が緑の党の労働政策です

緑の党は労働者派遣法改正に向けて反対声明をまとめました。日本流経営の良さを捨て、人件費削減で企業利益を増やそうとする流れがますます強くなっています。対抗する今までの労働を語る勢力は「正規フルタイム」「給料アップ」「公務員の増加」を訴えてきました。その原動力は正規労働者だけ

が加入する労働組合でした。その歴史には敬意を表しつつ、「非正規雇用」が爆発的に増加する現状にはあわなくなったと感じます。

長時間残業でへとへとに働く正規社員といくら働いても生活が安定しない非正規社員の構図を変え、政策が必要です。緑の党は「雇用形態やジェンダーによる、賃金・

社会保障・福利厚生などの格差をなくすこと＝同一価値労働同一賃金」を訴えています。その前提をもとに一人あたりの労働時間短縮と安定した雇用者の増加を求めます。オランダ型がモデルです。高砂市ならば「正規フルタイム」一本ではなく、任期付採用職員など「多様な正職員」制度の充実です。

●毎回、緑の党の政策や緑の党について紹介します。

2016年秋には加古川中央市民病院がオープン。それまでに高砂市民病院の大きな方向性を決めなくてはいけません。時間はありません。

緑の党の「公正な待遇があつてこそ多様な働き方が実現できる」声明を見たい方はぜひ緑の党のウェブの「声明・見解・論説・時事コメント」で

子育て日記 家庭訪問の日は子どもたちも緊張と興奮



先生がおうちにやってくる

4月 は家庭訪問の季節です。「家庭訪問の週は早く帰れてうれしい」と娘は喜んでい

ます。日程を分けて各家を訪問する先生は大変だろうな…と

思っているについに我が家の日がやってきました。早く帰宅した息子と娘はそわそわ。娘は外に様子を見にいたり、

家の周辺で友達と遊んでいます。息子は近所の友達と自転車でぐるぐる回っています。偵察のつもりでしょうか。日頃は学校でしか会わない先生が家に来るとい

先生、何て言っていた？

は大きなイベントなのでしょう。「先生、何て言っていた？」と息子が話の内容を聞き出そうとするので、妻は疲れて果てていました。

幼稚園 統廃合、こども園の流れの一方でも公立幼稚園は一定数は必要です

平成 27 年度 (2015) より始まる子ども・子育て支援新制度により、「幼稚園不要論」が吹き荒れそうです。保育園でも教育機能が備わり、こども園も今よりも柔軟な運用がされるから

です。しかし、私は公立幼稚園も一定数は必要と考えます。荒井幼稚園の学校評議会の中でも以下の発言を

1) 教育の質を保つために必要

保育園にも導入される「教育」部分の質を保つためには、時間的にも研修・研究時間のある幼稚園は必要。(例えば夏休みのある幼稚園の方が研修機会が多い。)定期的に幼稚園に異動させることで全体のレベルアップになります。

2) 保護者のニーズ

保護者も「9時～2時くらいだ

け子どもと離れ、あとは一緒に過ごしたい」というニーズの方がいます。また、保護者会のあり方も異なっており、幼稚園は運動会などの行事は保護者と園が一緒に作り上げるものとなっています。保育園の行事と大きく異なります。保護者には幼稚園の方式を求める方もいます。特に高砂市には「私立幼稚園」がなく、この項目にある保護者のニーズに対応するのは公立幼稚園だけです。

3) 地域でも違いがある

例えば荒井地区、米田地区のように幼稚園も保育園も人数が多く、施設がそれぞれ独立で成り立つところは一体化する必然性はありません。特に荒井幼稚園は新築で保育園と一体化は無理です。

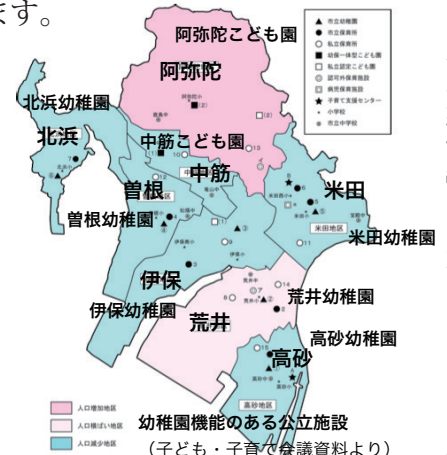
もちろん、地域によってはこ

をうろろう。これが娘と息子の2回繰り返されました。

先生の話はナイショですが、意外なところを褒められたり、靴の脱ぎ方など家庭でのしつけに注意されたりいろいろでした。私は隣の部屋で聞いていただけですが。ただ、息子は二人が話している横で靴を脱ぎ散らかし帰宅。あーあ。

その日の夜、「で、先生は何て言っていた？」と子どもが話の内容を聞き出そうとするので、妻は疲れて果てていました。

も園で十分という場合もあり、一定の統廃合は必要です。ニーズに適切に対応することで浮いた財源で①3歳から入園する3年保育の導入②臨時のクラス担任をやめ、せめて任期付採用職員を配置③高砂市ではいっさい行われていない「預かり保育」(2時以降の幼稚園での保育)の導入を行い、幼稚園としても質を高めるべきだと考え



●このニュース作成者 井奥まさきはこんな人

□井奥まさきプロフィール 1965 年生まれ。48 才。伊保小学校から淳心学院中・高校をへて岡山大学法学部へ。国際交流団体ピースボートや国会議員秘書などをへて、高砂市議 3 期 11 年間。国政選挙関係の文書違反事件で自主的に辞職。その後、4 年間市民活動として「つなげよう高砂」発行などを行う。全国的には「緑の党グリーンズジャパン」の設立に関わる。他に「自治体議員政策情報センター」の事務局、東京都・兵庫県議会の政務調査スタッフ。家族は妻と子ども二人。荒井町新浜在住。母は幼稚園教諭、父(故人)は山陽電車勤務。

4 歳児保育導入の際の暫定的な「臨時職員のクラス担任」がずるずると続いていきます。責任のある部署に「非正規職員」を貼付けることは問題があります。

高砂市の子ども・子育て会議もすでに 3 回実施。高砂市には珍しく議事録アップも早く、資料もきちんと公開されています。「高砂市子ども子育て会議」で検索を